

2. 事業の概要と成果

(1) 上位目標の達成度

【上位目標】

ヌワコット郡、ラスワ郡において学校及び地域の防災能力が強化され、他地域にも普及していく。

【達成状況】

本事業の成果の一つである防災紙芝居 6 タイトルが当会の対象校 24 校以外に、他郡の 81 のコミュニティ図書館やコミュニティラーニングセンター、学校で活用された。

(2) 事業内容

(ア) 教育省の耐震基準に準じた学校校舎の再建:

教育行政機関からの要請とニーズ調査に基づいて選定した、ヌワコット郡およびラスワ郡の 3 校・18 教室の校舎建設は、計画時には 2020 年 2 月に完了予定であったが、コロナ禍によるロックダウンならびに雨季における道路の悪化のため 2021 年 1 月に完了した。復興庁の縮小に伴い、ヌワコット郡の DLPID が認証調査を実施できなかったため、対象校の自治体の建設エンジニアに認証を依頼し、自治体からの認証レターを受領した（添付⑦参照）。また下記の通り、児童の衛生面、安全面から必要な学校にトイレ、擁壁、フェンスを設置した。

学校名	地名	受益者数(2019 年 6 月)	建設する施設
インディラヤニ校	ヌワコット郡ドゥブチエシュワ村	1 年生から 3 年生までの児童 44 名、教員 2 名	2 階建て 4 教室校舎、トイレ 2 室、擁壁・階段・フェンス(外務省支援)
ナラヤン校	ヌワコット郡ドゥブチエシュワ村	幼児クラスから 3 年生までの児童 47 名、教員 4 名	1 階建て 2 教室校舎(民間支援)、擁壁・階段・フェンス(外務省支援)
ガウタム・ブッダ校	ラシュワ郡、ナウクンダ村	幼児クラスから 10 年生までの児童生徒 280 名、教員 10 名	2 階建 12 教室校舎(外務省支援)

また、水タンクの設置、各教室に家具・備品、ホワイトボードの配布を行った。幼児クラスにはカーペット、円形のテーブル、靴箱、おもちゃ箱を供与した。

教員・学校運営委員会を対象に施設の維持管理研修を各学校において実施し、合計で教員 16 名、学校運営委員会メンバーならびに保護者 61 名の計 77 名が参加した。

(イ) 対象校の教員による図書館活動を通じた防災教育の実践:

① 図書コーナーの設置

3 年次に校舎建設を実施した学校(以下建設校)3 校とその周辺校(以下周辺校)9 校の幼児クラスから 5 年生までの各教室に図書コーナー(本棚と約 100 冊の図書)を設置した。なお周辺校への支援は自己資金にて実施した。配架した図書はカトマンズの出版社、ネパール人絵本作家・図書館司書からのヒアリングを基に、児童の年齢にあった絵本を幅広い分野から選定した。

② 防災紙芝居作成

防災紙芝居を自己資金にて『雷と火災』、『危ないーネパールの災害』の 2 タイトル、各 150 部ずつ作成した。絵コンテ作成段階で日本の紙芝居作家に助言指導を頂き、質の確保に努めた。紙芝居は計 38 校に配布した。また、紙芝居の演じ方の研修を行ったうえで他の NGO を通じて、86 の小学校やコミュニティ図書館、コミュニティ学習センターに配布した。

③ 図書活動研修

2 日間の図書活動研修を 2 カ所で行い、上述の建設校および周辺校計 12 校から計 39 名の教員が参加した。本研修では、①図書コーナーの活用および運営方法、②防災紙芝居の適切な演じ方等を指導した。

(ウ) 対象校における防災計画の策定:

教員、学校運営委員会を対象に学校防災計画策定研修を建設校の3校において実施し、合計で12校(建設校3校、周辺校9校)から教員28名、学校運営委員会メンバー24名の計52名が参加した。本研修ではネパールで発生する災害知識(地震、土砂災害、雷、火災、洪水等)を学ぶと共に、学校ごとに学校防災計画を作成し、災害時の危険箇所、避難経路、避難場所を策定にした。また捜査班、救護班、連絡班を編成し、災害時の教員の役割を明確化した。

(エ) 対象校の教員、学校運営委員会、地域住民、行政職員の防災に対する理解の向上:
各校が策定した学校防災計画に基づいて、建設校3校、周辺校9校で避難訓練を行い(自己資金にて執行)、児童826名、教員62名、学校運営委員会および保護者51名の計939名が参加した。避難訓練の実施前に、学校運営委員会および保護者に対して学校防災計画を説明するとともに、防災紙芝居を演じ、防災に対する理解を高めた。

(オ) モニタリング・評価:
校舎建設については、コロナ禍によるロックダウン、雨季で建設工事が中断した時期、ダシャイン休みの期間を除いて、当会の建設エンジニアが各対象校1校につき、ほぼ毎週モニタリングを行い、建設工事および資材の質の確保に努めた。
図書コーナーならびに防災紙芝居については、建設校3校の活用状況を2021年3月にモニタリングを行った。

(3) 達成された成果

本事業で取り組んだ上記活動の成果について、下記の指標に基づいて確認した。

【期待される成果】

1. 教育省の耐震基準に準じて再建された学校校舎が利用される。

【指標】

・3年目:対象校(9校)が再建された学校校舎を利用している。

【達成度】

9校とも校舎完成後にヌワコット郡の教育省および復興庁の校舎建設監督機関であるDistrict Level Project Implementation Unit (DLPIU)あるいは自治体教育課の実地検証を受け、設計図通りに完成したことを認証する書簡を受領していることから(添付⑦参照)、目標は達成されたと言える。

建設した耐震構造校舎の教室数と児童数は以下の通り。児童数は支援前年の6月に収集した登録児童数である。支援後の登録児童数は9校とも2021年3月に収集した。これにより1年次支援校については支援完了3年後の本活動のインパクトを、2年次支援校については支援完了2年後の本活動のインパクトを測定することができた。3年間の9校の合計で支援前の887名から支援後の1118名に26.0%増加した。この理由は、学習環境が改善されたことにより、遠隔地にある他校に通っていた児童が本事業対象校に通うようになったためである。またスクールバス等で私立学校に児童を通わせていた世帯は、コロナ禍の影響により収入が減ったため、私立学校の学費負担が困難になったためとも言われている。一方、2年次のうち1校において登録児童数が18%減少している。この理由は、校長によると近隣に低授業料の私立学校が設立されたためである。

学校名	運営されているクラス	登録児童数		
		事業開始前	事業実施後 2021年3月	増減率 (備考)
1年次対象校				
ラムチャンドラ校	ECDクラスから8年生、9	183名	246名	34%増
シタールマ校	ECDクラスから6年生、7	129名	193名	50%増
		5年生クラスまでだったが2019年度に6年生クラスまで拡張した。		
ジャンティビ校	ECDクラスから5年生、6	62名	65名	5%増
2年次対象校				
マヘンドラ校	ECDクラスから5年生	60名	49名	18%減

サスディ校	ECD クラスから 5 年生	60 名	59 名	2%増
ジャブッダ校	ECD クラスから 5 年生	72 名	81 名	13%増
3 年次対象校				
インディアヤニ校	1 年生から 4 年生	31 名	45 名	45%増
ナラヤン校	ECD から 4 年生	34 名	51 名	50%増
ガウタム・ブッダ校	ECD から 10 年生	256 名	329 名	29%増
3 年間合計	9 校で 55 教室を建設	887 名	1118 名	26%増

【期待される成果】

2. 対象校の教員が図書館活動を通じた防災教育を実践できるようになる。

【指標①】

3 年目：対象校（9 校）の教員の 80%以上がおはなし、ゲーム、教材制作、場づくりを実施している

【達成度】

2021 年 3 月に実施した、3 年次建設対象校の校長へのインタビューおよび教員へのアンケート調査結果は以下の通りで、紙芝居、絵本の読み聞かせ共に目標値以上の割合で実践されている。

	防災紙芝居を月に 1 回以上演じている教員の割合	月に 1 回以上絵本の読みきかせをしている教員の割合
1 年次対象校	93%	73%
2 年次対象校	79%	86%
3 年次対象校	71%	86%
平均	81%	82%

【指標②】

3 年目：対象校（9 校）の子供の 80%以上が図書室もしくはコーナーを利用している

【達成度】

2021 年 3 月に実施した、3 年次を対象校への教員へのアンケート調査結果は以下の通り。3 年次の対象校のうち 2 校はコロナ禍のため、建設完了が遅れ、これにともない図書コーナー設置も教員研修を実施した 2019 年 12 月から 1 年 2 カ月後の 2021 年 3 月に実施したため、教員が研修の成果を十分に活かしていないためであると考えられる。このため、上記のアンケート調査を実施した際、図書コーナー活用法について助言・指導を教員に対して行った。9 校の平均としては 89%の児童が日常的に図書コーナーの本を読んでおり、目標は達成された。

	図書コーナーを週に 3 回以上利用している児童の割合
1 年次対象校	100%
2 年次対象校	100%
3 年次対象校	68%
平均	89%

【期待される成果】

3. 対象校にて防災計画が策定される。

【指標】

3 年目：対象校（9 校）の 80%以上が独自の学校防災計画を利用している。

【達成度】

9校とも学校の敷地、校舎の階数、配置、運動場のスペースに応じた学校防災計画を策定し、教員室に掲示している。また2020年2月まで建設が完了した7校は、防災計画に基づいて避難訓練を自主的に実施した。

【期待される成果】

4. 対象校の教員、学校運営委員会、地域住民、郡教育局の職員が防災に対する理解が向上する。

【指標①】

3年目：対象校(9校)の教員、学校運営委員会、地域住民、郡教育局の80%以上が防災に関する必要な知識を有している。

【達成度】

児童、教員、学校運営委員会および保護者へのアンケート調査を行い、事業の効果を測定した。結果は以下の通りで、総合評価において児童は75%とほぼ目標値を達成、教員は93%と目標値を大きく達成、学校運営委員会・保護者は70%と目標値にはとどかなかったものの、事業実施前が35%であったので、大幅に改善した。

<児童>

質問	対象	事業前	事業後
地震発生の原因を知っている。	1年次	0%	50%
	2年次	7%	87%
	3年次	0%	32%
	平均	2%	56%
地震が起きた時どうすれば良いか知っている。	1年次	50%	100%
	2年次	27%	100%
	3年次	55%	77%
	平均	44%	93%
総合評価		23%	75%

<教員>

質問	対象	事業前	事業後
地震発生の原因を知っている。	1年次	45%	91%
	2年次	84%	100%
	3年次	64%	73%
	平均	64%	88%
地震が起きた時どうすれば良いか知っている。	1年次	100%	100%
	2年次	89%	100%
	3年次	82%	91%
	平均	90%	97%
地震について児童に教えたことがある。	1年次	64%	100%
	2年次	95%	100%
	3年次	45%	100%
	平均	78%	100%
地震が起きた時どうすれば良いのか児童に教えることができる。	1年次	64%	100%
	2年次	74%	85%
	3年次	63%	73%
	平均	67%	86%
総合評価		75%	93%

<学校運営委員会・保護者>

質問	対象	事業前	事業後
地震発生の原因を知っている。	1年次	0%	50%
	2年次	13%	33%

地震が起きた時どうすれば 良いか知っている。	3 年次	20%	40%
	平均	11%	41%
	1 年次	83%	100%
	2 年次	73%	100%
	3 年次	20%	100%
	平均	59%	100%
総合評価		35%	70%

【指標②】

3 年目:対象校(9 校)に通う子ども及び親の 80%以上が学校防災計画の存在を認知している。

【達成度】

児童、保護者へのインタビュー結果は以下の通りで、共に目標値を達成できなかった。この理由としては、質問が学校防災計画の存在を認知している割合ではなく、理解している割合なので、質問のレベルが指標よりも高いことがあげられる。

	学校防災計画を理解 している児童の割合	学校防災計画を理解 している保護者の割 合
1 年次対象校	71%	43%
2 年次対象校	43%	43%
3 年次対象校	73%	60%
平均	62%	49%

(4) 持 続発展 性

成果 1 の校舎建設については、維持管理研修を教員および学校運営委員会を対象に、建設後校舎引き渡し前に実施した。その後、校舎、施設、備品は学校に譲渡され、学校および自治体の教育部が維持管理の責任を負っている。1 年次、2 年次共に完成 6 カ月後に瑕疵責任検査を実施し、必要な修繕を建設業者が行った。その後、修理が必要な場合、学校運営委員会および自治体教育部が予算措置を行い、修繕工事を行っている。3 年次対象校の瑕疵責任検査は 2021 年 8 月に実施する予定。

成果 2 の図書活動については、各教室に供与した図書は有効に活用されていることがモニタリング調査によって確認されたが、図書は補充しなければならないので、学校の補助金を活用して、学校が独自に図書を購入しなければならない。

発行した防災紙芝居は、ネパールで初めての取り組みであり、他の NGO や図書館から供与の要請があったため、各 10 冊につき、約 80 部を供与した。これにより、本事業の波及効果を高めることができた。

成果 3 の学校防災計画については、各学校で避難訓練を行い、防災活動の定着を図っている。

成果 4 のコミュニティの啓発については、保護者を対象に学校防災計画の説明会、避難訓練の参加、コミュニティ防災マップの報告会への参加を行った。今後も避難訓練の参加を各学校で定期的に行う予定である。